

NHSJ Newsletter

第 37 号 2019 年 2 月 15 日

日本ナサニエル・ホーソーン協会事務局

〒274-0063 千葉県船橋市習志野台 7-24-1

日本大学理工学部 鈴木孝研究室内

E-mail: jimukyoku.hawthorne@gmail.com

公式 HP: <http://www.nhs-j.org/>

郵便振替 00190-1-66463

ご挨拶

会長 高橋利明

昨年は、国際ポー・ホーソーン会議が開催されたため、定例の全国大会がありませんでしたので、少し淋しく感じられた会員の方々もおられたことかと存じます。お蔭様で関係各位の献身的なご協力によって、国際大会は大成功のうちに終えることができました。大会全体を統括された成田前会長には心から大きな拍手をお送りしたいと思います。成田先生の粘り強さがあってこそその大盛会でした。日本での国際大会の打診は、だいぶ以前よりあったようですが、正式な決定は2014年6月開催の“Hawthorne in the Berkshires: The Nathaniel Hawthorne Society Biennial Summer Meeting” (North Adams, Massachusetts College of Liberal Arts) においてでした。私は口頭発表で参加しましたが、期間中に日本での大会を要請され、すぐに成田会長に国際電話で確認し、最終日の会議にて正式に受諾を表明しました。North Adams の大会では、当時の会長 Rosemary Fisk 先生と次の会長の Jason Courtmanche 先生には、大会前からいろいろとお世話を頂き、まさに“hospitality”の真髄を見ていましたので、今回の京都でどれだけのお返しができたかわかりませんが、皆様の惜しみないご支援、ご協力のもと海外から来られた研究者の方々にご満足いただけたことと信じております。

さて、最近、内村鑑三(1861-1930)の『後世への最大遺物』(1897)を再読しました。無教会主義のキリスト教を説いた宗教思想家である内村は、人間が後世に遺すことのできる最大遺物とは、お金でも事業でも思想でもなく、「勇ましい高尚なる生涯」であると言います。そして、その一つのエピソードとして、19世紀英国を代表する思想家の Thomas Carlyle の *The French Revolution: A History* (1837) 完成の経緯が取り上げられます。Carlyle が心血を注いで何十年もかかって書き上げたこの原稿は、友人 (J. S. Mill) の友人にまた貸しされ、ある冬の日の朝、その友人の家のストーブの火の焚付けにされ灰燼に帰ってしまったのです。しかし、茫然自失と立腹の10日の後、Carlyle は、己に帰り自分を鼓舞激励して再度書き上げたのです。このような不運にあっても、勇気を奮い起こして立ち向かう心こそが、後世への最大遺物であると内村は言うのです。このような「勇ましい高尚なる生涯」を目指したいものです。そして、そのような生涯を送られ、鬼籍に入られた先生が二名おられます。元会長の師岡愛子先生と会員の大杉博昭先生です。一昨年の阿野文朗先生、昨年の萩原力先生に続く訃報でとても残念で悲しくもありますが、協会のこれまでの発展をお導きいただいた先生方のご冥福を心からお祈り申し上げます。

さて、今年の全国大会の会場は、城戸光世先生のご尽力で県立広島大学のサテライトキャンパスひろしまとなりました。例年以上にさらに充実した大会となりますよう、会員諸氏のご尽力とご協力を賜りたくどうかよろしくお願い致します。

では、広島でお会いしましょう！

国際ポー・ホーソン会議報告

成田 雅彦（国際会議実行委員会代表）

皆さますでにご承知のように、国際ポー・ホーソン会議が2018年6月21日～24日、京都ガーデンパレスホテルを会場に開催されました。日米2つのホーソン学会、また2つのポー学会の4学会共催で行われる初の国際会議。40年に近づきつつある我が日本ナサニエル・ホーソン協会の歴史の中でも、まさにランドマークと言っていい記念すべきイベントだったと思います。15か国から180人を上回る参加者を得て盛大に行われた本会議は、ホーソンやポーを研究する学者たちの真剣な学術的意見交換、そして和やかな親睦の場となり、まさに国際会議ならではの多くの実を結んで閉会しました。ともすれば国内だけの活動になりがちな日本の我々が、海外の研究者から多くを学んだことはもちろん、海外からの参加者の方々からも、この国際会議に多くの賛辞が送られたことをお伝えしておきます。まさに皆さまのご協力の賜物であり、大会組織者の一人として厚く御礼を申し上げます。

会議は6月21日木曜日夜のレセプションで幕を開けました。日本で初めてのホーソンとポーの国際会議とあって、海外からの参加者も日本側の参加者も、皆さん、緊張の面持ちでの歓迎会が始まりました。研究書で名前は知っていてもはじめて出会う海外の研究者たち、若手の研究者や院生たち、その方々との共同作業の4日間の始まりです。しかし、当初の緊張もつかの間、相互の懇談、スピーチ、そして余興にお願いした箏の演奏の和らいだ雰囲気の中、次第に打ち解け、それぞれの研究や翌日からの研究発表などをあちこちで語り合うグループが見られました。海外の方々の中には、箏の調べに熱心に耳を傾けたり、また途中からは箏の演奏体験もあり、初めて触れる日本の楽器に興味深く触れる方々もいて印象的でした。

22日の金曜日から24日の日曜日午前中までは研究発表。40のセッションが行われ、日本の学会におけるシンポジウムのように特定のテーマの下に行われるいくつかのラウンド・テーブルを含む120程の発表が行われました。ホーソン作品やポー作品の単独研究発表はもちろん、ホーソンとポー両作家を射程に入れた研究発表、また、大学での教育をめぐるセッション、日本での両作家の受け止められ方、多文化の中の両作家の位置づけ等、様々なテーマの研究発表が行われ、活発な議論が繰り広げられました。各セッションの参加者からはその研究発表の質の高さを称賛する声がかかれたことから、この国際会議の学術的な価値の高さが窺えます。日本の研究者の中には、国際会議は初めての参加という方々もおられました。堂々とした研究発表をされ、海外に向けて発信することの意味を再確認された方々も多かったようです。何人もの方々から、これからは、海外に出て行って、発表する機会を多くしたいと思いたいというお話を聞きました。

二つの記念講演も行われました。22日夜は、慶應義塾大学の巽孝之教授によるポーと大岡昇平作品をめぐるご講演。ポーの影響が日本の戦後を代表する作家にも及んでいることを興味深く拝聴しました。余談ですが、今回アメリカから参加されたある方が、ご自分の兄上はレイテ島の戦闘に参加したのだが、巽先生が大岡の小説を論じられる中でレイテ島のことに言及されてとても驚いたというお話がありました。日米の戦争は昔のことになったと思いきや、まだその影を引きずった方も今回の国際会議に参加しておられたことに個人的に強い印象を受けた次第です。

23日は、カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授で、われわれホーソン研究者にとっては忘れることのできない*The Province of Piety*の作者であるマイケル・コラカチオ教授の講演が行われました。今回、大会の準備段階でどなたに記念講演をお願いするかという話になった時、日本側からは是非コラカチオ先生にという申し入れを行ったのですが、ご高齢のこともあり、アメリカ側の大会役員の方々は無理ではないかというお話でした。なんとか講演はお引き受けいただいたものの、体調が悪くて行けなかったら、ご友人が原稿を代読するという約束でしたので本当に来られるのか我々も心配でした。しかし、終わってみれば、ご年齢を全く感じさせない

堂々たる講演でした。ポーとホーソーンの美学を中心に語られたご講演でしたが、個人的にはいくつもの箇所で *The Province of Piety* のエコーが聞こえたような気がしました。ホーソーン研究の記念碑的存在と申し上げては失礼ですが、こうして先生の肉声を聞いたことは感無量でした。

23日の夜は、懇親会がこれまた盛大に行われました。レセプションの時とは打って変わって打ち解けた雰囲気の中、今回の国際会議に大きな寄付をされた方々、また、これまでそれぞれに学会に大きな貢献をされた方々に対する表彰が行われ、また様々なスピーチの交換も行われました。会の途中からは舞妓さんも登場し、その踊る姿にカメラを向ける方々も大勢おられました。また、会場のあちこちで互いに写真を撮り合うグループが目立ちました。この会議を通じて培われた国を超えた研究者の交流を垣間見るようなひと時でした。

最終日24日の日曜日は、午前中研究発表が行われた後、昼食をはさんで、バスエクスカーションが行われました。参加者は2台のバスに分乗し、金閣寺と龍安寺の二つの世界遺産を回りました。梅雨の時期にもかかわらず晴天となり、またホーソーン協会関西支部の方々を中心に綿密に計画を立てていただいたお蔭で、和やかで楽しいエクスカーションとなりました。特に海外からの参加者の方々は、日本らしい、そして京都らしい雰囲気を十分に味わったと見えて、とても喜んでおられました。

4日間の国際会議は、こうして充実した時間のうちに、あっという間に終わりました。日本で行われると決まったのが三年前。ちょうど会長を務めさせていただいていたこともあり、アメリカのホーソーン学会会長であるサンドラ・ヒューズ先生とともに準備を開始しました。会期やホテルの選定、予算、発表会場や講演会場の予約からはじまって、山のようにある課題——ヒューズ先生と何百通というメールを取り交しながら、正直、これは本当に実現できるのであろうかという思いにとらわれたこともしばしばです。催しの大きさに圧倒され、二人して“crying on each other’s shoulder”という状況に陥ったことも二度や三度ではありません。しかし、日米共催4学会の会員の方々、とりわけ日本ナサニエル・ホーソーン協会の会員の皆さまから多大なご協力を得られたお蔭で会議は大成功を収めることができました。まさに、皆さまのご尽力によって成しえた国際会議と言っても過言ではありません。ここで得られた成果を未来に引継ぎ、日本ナサニエル・ホーソーン協会がさらに海外とも連携を深めて発展していくことを願いたいと思います。

International Poe and Hawthorne Conference

At the Kyoto Garden Palace Hotel in Kyoto, Japan, on June 21-24, 2018

Sponsored by The Poe Studies Association, The Poe Society of Japan, The Nathaniel Hawthorne Society, and The Nathaniel Hawthorne Society of Japan

Friday, June 22

[Session 1 9:00-10:20]

<Poe and Others> Room 1: Gion

Chair: Keiko Noguchi (Tsuda University)

Paul Lewis (Boston College) "From Tamerlane to the 'Crazyite' Cabal: Poe's Complex Relation to Boston." Ryoichi Yamane (Tokyo Metro University) "Network Authors of the American South: Edgar Allan Poe and William Gilmore Simms." Richard Kopley (Penn State DuBois) "Poe at Saddle Meadows and the Church of the Apostle."

<Poe and the Spirit> Room 2: Kaede

Chair: Naoyuki Mizuno (Kyoto University)

Christopher P. Sementner (Poe Museum) "Paranormal Poe: Edgar Allan Poe and Spiritualism." Barbara Otal (Université Bordeaux Montaigne) "'In the beginning was God': Poe's Happy Cosmogony." S. Jonathon O'Donnell (Aoyama Gakuin University) "Desolation into Silence: Deployments of the American Gothic in Spiritual Warfare."

<Hawthorne, Influences and Connections> Room 3: Sakura

Chair: Mitsuru Sanada (Ryukoku University)

David Greven (University of South Carolina) "Veiled Influence: Shakespeare and Gender in *The Blithedale Romance*." Shinichiro Noriguchi (University of Kitakyushu) "Two Moralists and One Artist: Hawthorne, Melville, and James." Magnus Ullén (Stockholm University) "'Nothing if Not Allegorical': *Daisy Miller*, Hawthorne, and the Commodification of American Romance."

<Poe, Hawthorne, and Interpretation> Room 4: Tachibana

Chair: Taras Sak (Yasuda Women's University)

Monica Pelaez (St. Cloud State University) "Why Heaven Matters to Poe: A Metaphor for the Value of Poetry in an Age of Science Ascendant." Candace Waid (University of California, Santa Barbara) "Poe Paints: Pulsing Light and Metrics Beyond Words." Joshua Matthews (Dordt College) "Nathaniel Hawthorne's Hell: Dante in his 1850s Stories and Novels."

[Coffee Break 10:20-10:50]

[Session 2 10:50-12:10]

<Poe and Anthologies I> Room 1: Gion

Chair: Margarida Vale de Gato (University of Lisbon)

Emron Esplin (Brigham Young University) "One Hundred Years of Terror, Ratiocination, and the Supernatural: Anthologizing Poe in Argentina from the 1880s through 1980s." Bonnie Shannon McMullen (Independent Scholar) "Poe's Afterlife in Britain: What Role Did British Anthologies Play?" Stephan Rachman (Michigan State University) "Usher II: Poe, Anthologies, and the Rise of Science Fiction." Alexandra Urakova (A. M. Gorky Institute of World Literature, Russian Academy of Sciences) "Miscellaneous or Anthologized? How to Read Poe in Antebellum Gift Books."

<Hawthorne and Things> Room 2: Kaede

Chair: Shinichiro Noriguchi (University of Kitakyushu)

Charles Baraw (Southern Connecticut State University) "Hawthorne and Things." Shelley Drake Hawks (Middlesex Community College) "Hawthorne's Challenge to Convention through a Dialogue with Things: House, Art, and Landscape at the Old Manse, 1842-45." Chiyo Yoshii (Osaka University) "Humanity as Matter: Hawthorne and Vivacious Materialism."

<Poe in Japan> Room 3: Sakura

Chair: Hisayo Ogushi (Keio University)

J. Scott Miller (Brigham Young University) "The Nine (and More!) Lives of Poe's Black Cat in Japanese." Miguel Rivera (Tufts University) "'If a week goes by without reading a mystery, I suffer withdrawal symptoms': From Edgar Allan Poe's Dupin to Soji Shimada's Mitarai in *The Tokyo Zodiac Murders*."

<Poe and History> Room 4: Tachibana

Chair: Michiko Shimokobe (Seikei University)

Sandra Tomc (University of British Columbia) "Edgar Allan Poe and the Economics of Enmity." Maki Sadahiro (Meijigakuin University) "The Birth of the American Poe and the Transatlantic Triangular Literary Exchanges." Emily Gowen (Boston University) "Poe, Literary Conquest, and the Labor of Cultural Production."

[Obento Lunch 12:10-1:30] Hall 1: Aoi

[Session 3 1:30-2:50]

<One Poe or Many?> A Roundtable Discussion, Room 1: Gion

Co-chairs: Paul Lewis (Boston College), and Scott Peeples (College of Charleston)

Jana Argersinger (Washington State University), J. Gerald Kennedy (Louisiana State University), Richard Kopley (Penn State DuBois), Paul Lewis (Boston College), and Scott Peeples (College of Charleston).

<Blithedale> Room 2: Kaede

Chair: Yoko Sano (Sophia University)

Naochika Takao (Chuo University) "The Blithedale Conspiracy Theory: The Significance of the Narrator Who Knew (but Does Not Tell) Too Much." Naoko Uchibori (Nihon University) "Transpacific Intertextuality of Utopian Communities: Gender and Sexuality in *The Blithedale Romance* and Works on Atarashiki-mura (New Village)."

<Hawthorne in Foreign Lands> Room 3: Sakura

Chair: Pradipta Sengupta (M.U.C. Women's College Burdwan, University of Burdwan, India)

Leonardo Buonomo (University of Trieste) "In a Foreign Land: Estrangement in 'Rappaccini's Daughter.'" Frank Christianson (Brigham Young University) "Hawthorne's Transatlantic Legacy of 'Neutrality' and the Aesthetics of Abatement." Gregory Dunne (Miyazaki International College) "Hawthorne and Travel, Beauty, and Ruin."

<Hawthorne and Nature> Room 4: Tachibana

Chair: Alfred Bendixen (Princeton University)

Samuel Coale (Wheaton College, Massachusetts) "Whose Woods These Are, I Think I Know: Japanese Forest-Bathing and Hawthorne's Haunted Forests." Naoyuki Nozaki (University of Texas, Arlington) "'Counterfeit Arcadia': Rethinking Nathaniel Hawthorne's Visions of Nature in *The Blithedale Romance*." Katherine E. Bishop (Miyazaki International College) "Hawthorne's Wondrous Ecology."

[Session 4 3:10-4:30]

<Poe, Hawthorne, and the Gothic> Room 1: Gion

Chair: Richard Kopley (Penn State DuBois)

Alfred Bendixen (Princeton University) "Hawthorne v. Poe: Two Gothic Landscapes." Janet Chu (University of Stirling) "The Gothic Aesthetic of the Supernatural and Metaphor: A Comparative Stylistic Analysis of Poe's 'The Fall of the House of Usher' and Hawthorne's 'Young Goodman Brown.'" Martin Kevorkian (University of Texas, Austin) "Hawthorne's Gothic Preparations."

<No session> Room 2: Kaede

<Poe, Hawthorne, and Reading> Room 3: Sakura

Chair: Philip Edward Phillips (Middle Tennessee State University)

William E. Engel (The University of the South: Sewanee) "Poe Reads Montaigne: 'By diverse means we arrive at the same end.'" Milette Shamir (Tel Aviv University) "How the East Became Interesting: Poe and Holy Land Mania." Carlo Martinez (Università G. d'Annunzio, Chieti-Pescara, Italy) "'The effervescence of a moment': Hawthorne, Poe, and the Penny Press."

<Circularity, Community, and Dialectics in Hawthorne> Room 4: Tachibana

Chair: Misa Ohno (Tokyo University of Marine Science and Technology)

Yoko Kurahashi (Tokai Gakuen University) "The Circular Images in 'Ethan Brand' Compared with Those in *Moby-Dick*." Fumiko Takeno (Tokai Gakuen University) "'Ethan Brand' and Its Community." Masahiro Uehara (Senshu University) "Allegory of Dialectic Reading: An Example of Hawthorne's Art of Fiction."

<Plenary Lecture> Hall 1: Aoi

Takayuki Tatsumi (Keio University) "In Pym's Footsteps: Poe, Ooka, and Ballard."

[Dinner on Your Own]

Saturday, June 23

[Session 5 9:00-10:20]

<Hawthorne and the Humanities Today> Room 1: Gion

Chair: Derek Pacheco (Purdue University)

Mitsuyo Kido (Hiroshima University) "Reading *The Scarlet Letter* in the 21st Century." Christopher Lukasik (Purdue University) "Embodiment and Knowledge in 'The Birthmark.'" P. Ryan Schneider (Purdue University) "Hawthorne as a Model for Re-valuing Labor in the Humanities."

<Emerson in Translation> A Roundtable Discussion, Room 2: Kaede

Chair: Sarah Wider (Colgate University)

Yoshiko Fujita (Nara Women's University), and Atsuko Oda (Mie University).

<Contemporary Political Issues> Room 3: Sakura

Chair: Teruyuki Okamoto (Fuji Women's University)

Paul C. Jones (Ohio University) "'A story that tells all we need to know about the moment we live in now': The Political Work of Poe's 'The Masque of the Red Death' in the AIDS Era." Stacey Margolis (University of Utah) "Poe in the Age of Populism." Jaqueline Pierazzo (University of Porto, Portugal) "Mapping Edgar Allan Poe's Terror: A Digital Humanist Approach to Poe's *Oeuvre*."

<Poe and the Visual Arts I> Room 4: Tachibana

Chair: Sonya Isaak (University of Heidelberg)

Stefanie Rocknak (Hartwick College) "Poe Returning to Boston: Storytelling in Bronze." Francie Crebs (Université Paris-Sorbonne) "Exploring the 'Richmond Room': Poe and American Decorative Arts." Amy Golahny (Lycoming College) "Poe's References to the Visual Arts."

[Coffee Break 10:20-10:50]

[Session 6 10:50-12:10]

<Teaching Hawthorne> A Roundtable Discussion, Room 1: Gion

Chair: Sandra Hughes (Western Kentucky University)

Jason Courtmanche (University of Connecticut) "High School-College Partnerships and the Teaching of Nathaniel Hawthorne." Rosemary Fisk (Samford University) "Teaching Hawthorne in Current Contexts: 'My Kinsman, Major Molineux' and the White Supremacist Mob." Masahiko Narita (Senshu University) "Lost or Gained in Translation? Teaching Hawthorne in Japanese Universities."

<Remediation, Disintegration, and Prognostication> Room 2: Kaede

Chair: David Farnell (Fukuoka University)

Jonathan Elmer (Indiana University) "Poe and the Origin of the 'Special Effect.'" Yuji Kato (Tokyo University of Foreign Studies) "Policing in Poe: Disintegration, Dreams, and Detection." Hugh Lee Rozelle (University of Montevallo) "Prognostic of Death: Poe and the Southern Ecogothic."

<Poe's Fiction> Room 3: Sakura

Chair: Alexandra Urakova (A. M. Gorky Institute of World Literature, Russian Academy of Sciences)

Jarkko Toikkanen (University of Tampere, Finland) "Touch Images in Edgar Allan Poe's 'The Pit and the Pendulum.'" Sonya Isaak (University of Heidelberg) "'Debugging De Bug': The Hidden Legend of the Egyptian Scarabeus and its Representation in Poe's 'The Gold-Bug.'"

<Poe and the Visual Arts II> Room 4: Tachibana

Chair: Natsuo Chiyoda (Kagoshima University)

John Gruesser (Sam Houston State University) "Illustrating Poe's Detection." M. Thomas Inge (Edgar Allan Poe Museum/Randolph-Macon College) "Masters of the Macabre: Edgar Allan Poe, Richard Corben, and Graphic

Adaptation.” Nathan Timpano (University of Miami) “Illustrating Horror: Edgar Allan Poe, Aubrey Beardsley, and the Art of the Macabre.”

[Obento Lunch 12:10-1:30] Hall 1: Aoi

[Session 7 1:30-2:50]

<Teaching Poe> A Roundtable Discussion, Room 1: Gion

Co-chairs: Paul Lewis (Boston College), and Takayuki Tatsumi (Keio University)

Sandra Hughes (Western Kentucky University) “‘The Twins’: Teaching Paired Tales by Poe and Rambo in the Undergraduate and Graduate Classroom.” Yoko Ikesue (Kansai Gaidai University) “Teaching Poe in Japan—Past and Present.” Satoshi Kanazawa (Kyoto Women’s University) “Literary Treasure Hunting and Beyond: Reading ‘The Gold-Bug’ with Students.” Cristina Pérez (Universidad Complutense de Madrid) “Teaching Poe and Science.”

<Authority, Performance, and Original Sin> Room 2: Kaede

Chair: Takaaki Niwa (Kyoto University)

Rachel B. Griffis (Sterling College) “‘Freer Breath than our Native Air’: Authority and Imitation in Hawthorne’s *The Marble Faun*.” John S. Gentile (Kennesaw State University) “Performing Hawthorne: Teaching Hawthorne through Performance.” Toshiaki Takahashi (Nihon University) “Hawthorne and the Paradox of the Fortunate Fall: Eden Found in *The Marble Faun*.”

<Fiction of Poe and Hawthorne> Room 3: Sakura

Chair: Shoko Tsuji (Matsuyama University)

Nozomi Fujimura (Asia University) “Representations of the Female Body and Narratives of Male Subjectivity: Short Tales of Hawthorne and Poe.” Simone Turco (University of Genoa, Italy) “‘Subtle Exquisiteness’ and ‘Supreme Madness’: Wines, Carnivals, and Underground Paganism in Hawthorne’s and Poe’s Dark Imagery.” Brian Wall (University of Nevada, Las Vegas) “‘Mansions of Gloom’: Inheritance and Degeneration in *The House of the Seven Gables* and ‘The Fall of the House of Usher.’”

<Word and Image in Poe and Hawthorne> Room 4: Tachibana

Chair: Takuya Nishitani (Kobe University)

Zachary Tavlin (University of Washington) “Hawthorne’s Glimpse: Eclipsing the Camera Obscura.” Kohei Furuya (Kanagawa University) “The Photo Negatives of the Nation: Italy, War, and Hawthorne’s Writings after 1860.” Ugo Rubeo (Sapienza University of Rome) “‘Turning for Help to Europe’: Visual Arts in Poe and Hawthorne.”

[Session 8 3:10-4:30]

<The Oxford Handbook to Edgar Allan Poe—Aims and Strategies> A Roundtable Discussion, Room 1: Gion

Chair: William E. Engel (The University of the South: Seawanee)

J. Gerald Kennedy (Louisiana State University), Scott Peeples (College of Charleston), Jonathan Elmer (Indiana University), Philip Edward Phillips (Middle Tennessee State University), Alexandra Urakova (A. M. Gorky Institute of World Literature, Russian Academy of Sciences), Lesley Ginsberg (University of Colorado, Colorado Springs), and Sandra Tomc (University of British Columbia).

<Hawthorne, Race, Politics, and Aesthetics> Room 2: Kaede

Chair: Kayoko Nakanishi (Kyoto Sangyo University)

Jason Courtmanche (University of Connecticut) “James Baldwin Revises Hester Prynne: Race and the Influence of *The Scarlet Letter* upon *Go Tell it on the Mountain*.” Bruce Simon (The State University of New York at Fredonia) “Toward Resolving the Race and Hawthorne Problem: Racialist Aesthetics and Racializing Histories from ‘Old News’ to ‘Mainstreet’ to ‘Chiefly About War-Matters.’” Jun Okawa (Kyoto Notre Dame University) “Reading Skin: The Mark of Aesthetics in ‘The Birth-mark.’”

<The Paranormal, Power, and Pedagogy in Poe and Hawthorne> Room 3: Sakura

Chair: Lei Yu (Beijing Foreign Studies University)

Conor Scruton (University of Wisconsin, Milwaukee) “The ‘Not-Ghosts’ of Men and Race in Poe and Hawthorne.” Joel Pfister (Wesleyan University) “Hawthorne, Poe, and the Americanization of Power.” Jenny W. Lau (Dongbei University of Finance and Economics) “Teaching Hawthorne and Poe in Dalian, China.”

<Poe and the Africanist Presence> Room 4: Tachibana

Chair: Chitoshi Motoyama (Kyoto University of Foreign Studies)

Taras Alexander Sak (Yasuda Women's University) "Notes from Underground: Poe's Subterranean Presence in *The Underground Railroad*." Hiroko Shoji (Seikei University) "The Specter of Haiti: Figuring Contagious Blood in Edgar Allan Poe's 'The Masque of the Red Death.'" Kirin Wachter-Grene (New York University) "Subverting an Archetype: Edgar Allan Poe and African American Detective Fiction."

<Keynote Address 5:00-6:00> Hall 2: Kurama

Michael J. Colacurcio (University of California, Los Angeles) "Supernal Loveliness and Fantastic Foolery: The Aesthetic Dimension in Poe and Hawthorne."

[Banquet 9 6:30-9:00] Hall 1: Aoi

Sunday, June 24

[Session 9 9:00-10:20]

<Poe's Influence> Room 1: Gion

Chair: Mikayo Sakuma (Gakushuin Women's College)

Elna Absalyamova (Université Paris 13) "Heading to the Extreme Points of Literature: Edgar Allan Poe's Motives in the Short Prose by 'the Marxist Tsvetkov.'" Clark Davis (University of Denver) "Guy Davenport's '1830': Poe and the Art of Assemblage." David H. Evans (Dalhousie University) "Weirdly Similar: Edgar Allan Poe and Haruki Murakami."

<NHS Executive Council Meeting> Room 2: Kaede

<Reading, Writing, and Reviewing> Room 3: Sakura

Chair: Chiara Italiano (Scuola Normale Superiore di Pisa)

Sean Moreland (University of Ottawa) "The first deep print of nature on the soul': Hawthorne, Poe, and John Mason Good's *Book of Nature*." Lesley Ginsberg (University of Colorado, Colorado Springs) "Poe, Hawthorne, and the Profession of Letters." Paul Charles Grimstad (Columbia University) "Allegory and the Aesthetics of Mechanism in Poe's Reviews of *Twice-Told Tales*, 'The Philosophy of Composition,' and 'The Artist of the Beautiful.'"

<Recollecting the Past in Hawthorne> Room 4: Tachibana

Chair: Atsuko Oda (Mie University)

Kazuma Matsui (Keio University) "A Picture of the Past: Re/vision of History in Nathaniel Hawthorne's 'Old Ticonderoga.'" Linda Liu (Stanford University) "Hawthorne's *The Scarlet Letter* and Progress/Regress in Early American Space." Yu Uchida (Chuo University) "Recollecting Past and Re-Creating Self Anew: Hawthorne's Insight into the Act of Recollection in *The Blithedale Romance*."

[Coffee Break 10:20-10:50]

[Session 10 10:50-12:10]

<Transpacific and Transatlantic Poe> A Roundtable Discussion, Room 1: Gion

Chair: Shoko Itoh (Hiroshima University)

Keiko Shimojo (Kyushu University) "Manuscripts from the Other Side of the World: Poe, Yumeno, and Message-in-a-bottle Narratives." Yoshiko Uzawa (Keio University) "'He was a Poe': Yone Noguchi and His 1896 Plagiarism Scandal." Mark Seltzer (University of California, Los Angeles) "Poe's Self-Curved Worlds." Shoko Itoh (Hiroshima University) "Sakutarō's 'Blue Cat': Creolization of Transpacific Poe."

<NHS Open Business Meeting> (For all NHS members and non-members) Room 2: Kaede

Presiding; Sandra Hughes (Western Kentucky University)

<Science and Pseudoscience in Poe's Work> Room 3: Sakura

Chair: John Gruesser (Sam Houston State University)

Shoichiro Fukushima (Tokyo Denki University) "The (Quasi-) Double and (Pseudo-) Science—Uncertainty, Morality, and Materiality in Poe's Mesmeric Stories." Cristina Pérez (Universidad Complutense de Madrid) "Poe's Elective

Affinities." Carole Shaffer-Koros (Kean University) "Red Lions and Black Dogs: Alchemy in *The Narrative of Arthur Gordon Pym*."

<Poe and Anthologies II> Room 4: Tachibana

Chair: Emron Esplin (Brigham Young University)

Philip Edward Phillips (Middle Tennessee State University) "Poe's Poetry Anthologized." Jeffrey Savoye (Edgar Allan Poe Society of Baltimore) "Selecting for Posterity: Poe's Early Anthologists and the Battle for a Definitive Edition."

Margarida Vale de Gato (University of Lisbon) "Startling Restitutions, Significant Omissions: The French Come to the Rescue of Edgar Allan Poe."

[Obento Lunch 12:10-1:00] Hall 1: Aoi

<Post Conference Excursion>

Date and Time: Sunday, June 24, 2018. Meet in the hotel lobby at 1:00 pm. Will return to the hotel at 5:00 pm. Itinerary: Hotel → Ryoan-ji → Kinkaku-ji → Hotel.

This program is supported by a subsidy from Kyoto City and the Kyoto Convention & Visitors Bureau. This conference is supported by a grant from the American Studies Foundation.

Conference Organizers: Sandra Hughes (Western Kentucky University), and Masahiko Narita (Senshu University). **Conference Treasurer and Registrar:** Carole Shaffer-Koros (Kean University, Emerita). **Program Committee:** Philip Edward Phillips, Chair (Middle Tennessee State University), Samuel Chase Coale (Wheaton College, Massachusetts), Richard Kopley (Penn State DuBois, Emeritus), and Derek Pacheco (Purdue University). **Conference Logo and Program Design:** Naohika Takao (Chuo University). **Conference Sponsors:** Lenore's Diamond Level (\$30,000-) Susan Jaffe Tane. Zenobia's Emerald Level (\$10,000-\$29,999) Samuel Chase Coale. Hester's Pearl Level (\$5,000-\$9,999) Japanese American Studies Foundation. Ligeia's Platinum Level (\$2,500-\$4,999) Stephan Loewentheil. Miriam's Gold Level (\$500-\$2,499) Boston College, Brigham Young University, Kyoto City MICE, and Western Kentucky University. Helen's Silver Level (\$100-\$499) Philip Edward Phillips and Sharmila Patel. **Sponsoring Author Societies:** Nathaniel Hawthorne Society, President, Sandra Hughes (Western Kentucky University, 2016-), and President, Jason Courtmanche (University of Connecticut, 2014-16). Nathaniel Hawthorne Society of Japan, President, Toshiaki Takahashi (Nihon University, 2017-), and President, Masahiko Narita (Senshu University, 2013-17). Poe Studies Association, President, Amy Branam Armiento (Frostburg State University, 2018-), President, Paul Lewis (Boston College, 2016-18), and President, Philip Edward Phillips (Middle Tennessee State University, 2014-16). Poe Society of Japan, President, Takayuki Tatsumi (Keio University, 2009-).

Copyright ©2018 Sandra Hughes and Masahiko Narita Printed in Japan

東京支部研究会

2018年、東京支部研究会では下記の活動を行いました。増井志津代氏にジョナサン・エドワーズに関するご講演をいただいた3月の例会をはじめ、2018年はホーソーンを取り巻く作家たちを中心とした発表・作品研究が多く行われ、ホーソーン研究への、とりわけ新鮮で多角的な視点を提供いただいた研究会となりました。12月開催の読書会でもアメリカン・ルネサンスをテーマにしたテキストを選び、2018年の研究会を締めくくるにふさわしい、とても有意義な時間を共有することができました。また、7月の研究会では国際会議発表者有志による合評会も行い、参加者全員で会議の成功をあらためて分かち合いました。2019年も、研究発表・作品研究・読書会を開催する計画です。

△2018年3月2日(土)午後6時より(於 専修大学 神田キャンパス 7号館 8階 784会議室)

【講演】

講師：増井 志津代氏(上智大学)

題目：「ジョナサン・エドワーズと19世紀アメリカ小説」

司会：高尾 直知氏(中央大学)

△2018年7月14日(土)午後3時より(於 専修大学 神田キャンパス 7号館 763教室)

【合評会】

発表者：国際会議発表者有志

司会：成田 雅彦氏(専修大学)

△2018年9月29日(土)午後3時より(於 専修大学 神田キャンパス 1号館 42ゼミ室)

【研究発表】

発表者：貞廣 真紀氏(明治学院大学)

題目：「『白鯨』とアダプテーション」

司会：高橋 利明氏(日本大学)

【作品研究】

発表者：福島 祥一郎氏(東京電機大学)

作品：Edger Allan Poe, "Some Words with a Mummy"

△2018年11月10日(土)午後4時より(於 専修大学 神田キャンパス 7号館 763教室)

【作品研究】

発表者：高橋 愛氏(岩手大学)

作品：Herman Melville, "The Apple-Tree Table"

△2018年12月1日(土)午後3時より(於 専修大学 神田キャンパス 7号館 763教室)

【読書会】

テキスト：*The Cambridge Companion to the Literature of the American Renaissance*
(Cambridge UP, 2018)

司会・発表：大野 美砂氏(東京海洋大学)

発表者：小川 海洋氏(日本大学大学院生)

常光 健氏(中央大学大学院生)

野崎 直之氏(中央大学非常勤講師)

(鈴木 孝記)

中部支部研究会

中部支部では年3、4回研究会を開催しております。本年度は年度内にさらに1回開催予定です。

△2018年3月17日(土)午後2時より(於 東海学園大学 栄サテライト)

【研究発表】

発表者：倉橋 洋子氏(東海学園大学)

題目：「19世紀アメリカにおけるカンパセーションと知のコミュニティの形成」

司会：竹野 富美子氏(名古屋学院大学)

△2018年9月1日(土)午後2時より(於 東海学園大学 栄サテライト)

【研究発表】

発表者：竹野 富美子氏(東海学園大学)

題目：「エドガー・A・ポーと自然科学」

司会：中村 栄造氏(名城大学)

△2018年12月15日(土)午後2時より(於 東海学園大学 栄サテライト)

【研究発表】

発表者: 中村 栄造氏(名城大学)

題目: 「Robert Eggers 監督作品 *The Witch: A New England Folktale* を読む」

司会: 林 姿穂氏(三重県立看護大学)

(倉橋 洋子 記)

関西支部研究会

関西支部では例年4回のペースで支部研究会を開催していますが、今年は6月21日～24日、京都で **International Poe & Hawthorne Conference** が開催されたため、3回の例会としました。国際会議では関西支部はオープニング・レセプションと最終日のエクスカージョン(金閣寺～竜安寺)及び写真班を担当しましたが、何とか好評のうちに役目を終えることができ、ほっと胸をなでおろした次第です。

今年の研究会は他支部からゲストをお招きするとともに、ホーソーン以外にもテーマを広げてシンポジウムや講演を開催したことが特色と言えるでしょう。2019年3月にもジェイムズがご専門の難波江仁美先生に特別講演をお願いしています。なお、2019年4月より、支部研究会の世話人は中西佳世子先生に交代いたします。今後ともよろしく願いいたします。

△2018年3月25日(日)午後2時より(於 関西学院大学大阪梅田キャンパス 1406室)

【シンポジウム】

題目: 「19世紀アメリカ文学における親密圏の形成——「他者」と「共感」をめぐる」

講師: 稲富 百合子氏(岡山大学非常勤講師)

大野 美砂氏(東京海洋大学)

城戸 光世氏(広島大学)

司会: 西谷 拓哉氏(神戸大学)

△2018年9月29日(土)午後2時より(於 関西学院大学大阪梅田キャンパス 1401室)

【研究発表】

発表者: 荻谷 沙羅氏(京都府立大学大学院生)

題目: 「“Rappaccini's Daughter”と“The Domain of Arnheim”にみる庭園としてのアメリカ」

司会: 妹尾 智美氏(立命館大学)

【講演】

講師: 藤田 佳子氏(奈良女子大学名誉教授)

題目: 「エマソン詩の語り手について——仮面・詩人・作者」

司会: 小田 敦子氏(三重大学)

△2018年12月22日(土)午後2時より(於 関西外国語大学中宮キャンパス 6208号室(ICC))

【講演】

講師: 伊藤 詔子氏(広島大学名誉教授)

題目: 「Transatlantic Ecology ミルトン、コールリッジ、ソロー——レテの川から難破の浜辺へ」

司会: 丹羽 隆昭氏(京都大学名誉教授)

(西谷 拓哉 記)

九州支部研究会

九州支部では、研究会を適宜開催しています。

△2018年6月23日(土)午後3時より(於 北九州市立大学 E-512会議室)

【研究発表】

(1) 発表者: 山口 晋平氏(九州大学大学院生)

題目: 「『大理石の牧神』におけるモデルの崩壊と物語の喪失」

司会: 青井 格氏(近畿大学)

(2) 発表者: 青井 格氏(近畿大学)

題目: 「“Roger Malvin's Burial”における、果たされた／なかった埋葬、もしくは、守られた／なかった約束」

司会: 村田 希巳子氏(北九州市立大学非常勤講師)

(青井 格 記)

事務局だより

1. *NHSJ Newsletter* 第 37 号をお届けします。
2. 第 37 回全国大会は、国際ポー・ホーソーン会議が開催されたため行われませんでした。
3. 次回第 38 回全国大会は、2019 年 5 月 24 日（金）・25 日（土）の両日に県立広島大学サテライトキャンパスひろしま 502 大講義室（広島県民文化センター5 階）で開催されます。詳細は来年度にお送りいたします大会案内をご確認ください。会場で多くの会員の皆さまとお会いできることを楽しみにしております。
4. 会員の方々のご著書・論文等は、資料室にお送りくださるようお願いいたします。
5. 住所変更やご所属の変更がございましたら、事務局へご一報ください。
6. 本年度、ホーソーン協会に多大な貢献をされてきた二名の先生の訃報に接しました。ここに、ご遺徳を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

師岡 愛子 氏（2018 年 6 月 5 日 享年 93 歳）

1925 年生まれ。日本女子大学卒業。東京女子大学卒業。スミス大学大学院修士課程修了。日本女子大学助教授、教授を経て、日本女子大学名誉教授。日本ナサニエル・ホーソーン協会創立会員、同協会会長（第 2 代）、同協会顧問。著書に『ルイザ・メイ・オルコット——『若草物語』への道』（表現社 1995 年）、『ナサニエル・ホーソーン研究ノート』（表現社 1993 年）など。『ルイザ・メイ・オルコット——『若草物語』への道』で日本児童文学会奨励賞受賞。

大杉 博昭 氏（2018 年 11 月 13 日 享年 80 歳）

1938 年生まれ。法政大学大学院博士課程満期退学。宮崎大学助手、講師、助教授、教授、1994 年大学院設立にも尽力し大学院教授を経て宮崎大学名誉教授。宮崎大学付属図書館長、付属幼稚園長、日本ナサニエル・ホーソーン協会理事など歴任。著書に『灯心記——作家・詩人論他十二章』（近代文芸社 1990 年）、訳書にユードラ・ウェルティ『ハーヴァード講演——作家の生い立ち』（訳 りん書房 1993 年）、メーガン・マーシャル『ピーボディ姉妹——アメリカン・ロマン主義に火をつけた三人の女性たち』（共訳書 南雲堂 2014 年）など。

（鈴木 孝 記）

編集室だより

昨年編集委員長を承って、二度目の編集作業にはいつています。すこし馴れてきましたが、論文審査の難しさ、委員のあいだの意見調整の悩ましさを実感しています。こしは国際学会も開催されましたが、意外とそこでの発表にもとづく投稿は少なく、すこしメ切が近かったのかなと思いました。来年度以降に期待したいと思います。現在、次号に向けて論文査読中で、書評については5本を掲載予定です。ご期待ください。投稿して下さったみなさま、書評執筆をおひき受けいただいたみなさま、さらに、お忙しいなかで詳細なコメントをくださる編集委員のみなさまに、お礼を申し上げます。

投稿にあたっては、事務局の『フォーラム』投稿用アドレス (hawthorne.forum@gmail.com) 宛の電子メールに、Microsoft Word 書類 (.doc/.docx 形式) として作成した論文を添付してご提出ください (投稿専用アドレスを設けましたので、ご利用ください)。匿名審査のため、投稿者に関する情報 (氏名、ご所属、住所、メールアドレス、電話番号) は、電子メールの本文に書いてください。詳しい投稿規定は、日本ナサニエル・ホーソーン協会ホームページに記載されていますので、かならずそちらをご参照ください。とくに、いつもお願いしていますが、スタイルは *MLA Handbook* 第8版に準拠して下さいますように。積極的な投稿をお待ちしております。

- ・編集委員：大場厚志、城戸光世、佐々木英哲、高尾直知 (編集長)、中村栄造、古屋耕平
- ・編集室：〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1

中央大学文学部 高尾研究室気付 日本ナサニエル・ホーソーン協会編集室

(高尾 直知 記)

資料室だより

これまでに下記の論文をご寄贈いただきましたので、ご報告いたします。

- 石月正伸・高島真理子・古宮照雄・谷岡朗・鈴木孝・安田比呂志 (訳) デヴィッド・パンター著『恐怖の文学——その社会的・心理的考察 1765年から1872年までの英米ゴシック文学の歴史』松柏社 (2016)
- 中西佳世子・林以知郎 (編著) 『海洋国家アメリカの文学的想像力——海軍言説とアンテペラムの作家たち』開文社 (2018)
- 福岡和子「メルヴィルとホーソーンを巡る事前検閲と自己検閲」『関西アメリカ文学』55 日本アメリカ文学会関西支部 (2018)
- 水野尚之 (訳) ヘンリー・ジェイムズ著『ガイ・ドンヴィル』大阪教育図書 (2018)

ご協力ありがとうございました。

資料室を充実させてゆきたいと存じますので、今後とも皆様のご協力をお願いいたします。著書上梓の折にはご書名等を、論文ご執筆の折にはタイトル等を、下記の資料室までお知らせ頂きますと幸いです。

尚、来年度は担当者がサバティカル (海外研修) のため、一年間資料室を不在にします。著書や論考をご寄贈いただく場合、これまで同様に下記の住所にお送りいただければと存じますが、合わせて E メールにてお知らせいただけますと幸いです。また、来年度の「ホーソーン研究」や「資料室だより」に一部掲載漏れが出る可能性があります。その場合には次年度に掲載させていただくことで対応させていただきたく存じます。大変ご不便おかけいたしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

日本ナサニエル・ホーソーン協会資料室

〒981-8557

宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘 9-1-1

宮城学院女子大学 学芸学部英文学科 田島優子研究室内

電話：022-277-6111 (研究室直通) 022-279-1311 (代表番号)

Eメール：y-tashima@mgu.ac.jp

(田島 優子 記)

第 37 回大会のお知らせ

日 時：2019 年 5 月 24 日（金）、25 日（土）
場 所：県立広島大学サテライトキャンパスひろしま
（広島県広島市中区大手町 1 丁目 5-3 電話：082-258-3131）

《第 37 回大会概要》

昨年は京都で行われた国際ポー・ホーソン会議が盛況のうちに幕を閉じました。そのため全国大会は不開催でしたが、2019 年は広島で開催されます。次回大会は例年通り、研究発表、特別講演、シンポジウム、ワークショップの構成です。特別講演は元会長である丹羽隆昭先生にご登壇をお願いいたしました。シンポジウムでは、真田満先生、伊藤淑子先生、小田敦子先生、倉橋洋子先生という、新たな顔ぶれも交えたメンバーで、ホーソン、エマソン、フラー、メルヴィルといった作家を経済的側面から考察していただき、ワークショップでは藤村希先生、佐野陽子先生、福島祥一郎先生、古屋耕平先生ら、新進気鋭の先生方に「ウェイクフィールド」の読みの可能性を論じていただきます。会員の先生方の多数のご参加を期待しております。

【第 1 日】

- ・開会のことば
- ・研究発表（発表を希望される方は、下記の応募規定に従い、ふるってご応募ください）
- ・ワークショップ

「ウェイクフィールド」を読み直す

司会・講師：藤村 希 氏（亜細亜大学）
講師：佐野 陽子 氏（上智大学非常勤講師）
講師：福島 祥一郎 氏（東京電機大学）
講師：古屋 耕平 氏（神奈川大学）

<概要>「ウェイクフィールド」は、ホーソンの作品の中でも特に読み直し・書き直しが繰り返さされてきた作品の一つと言えます。ボルヘスがこの作品を、世界を代表する傑作として激賞したことはよく知られていますが、ポール・オースターや E・L・ドクトロウ、アルゼンチン作家エドゥアルド・ベルティなど、アメリカ内外の現代作家による翻案が書かれ、日本では、阿野文朗『ラパチーニの娘——ナサニエル・ホーソン短編集』（2013）、柴田元幸『アメリカン・マスターピース 古典篇』（2013）など、近年出版されたアンソロジーにホーソン、そしてアメリカを代表する短編の一つとしてこの作品が訳出されています。改めて、「ウェイクフィールド」をいま、どのように読み直すことが可能でしょうか。本ワークショップでは、発表者 4 人がそれぞれの関心に基づき「ウェイクフィールド」を読み直し、15 分程度の発表をもとにフロアのみなさまに問いを提示します。この 4 つの問いに対する発表者間・フロアのみなさまと発表者間のインタラクティブな応答の中から、この作品に新たな光を当てることを試みたいと思います。みなさまとともに作り上げるワークショップ、どうかみなさまの積極的なご参加とご協力をよろしくお願いいたします。

- ・特別講演
講演者：丹羽 隆昭 氏（京都大学名誉教授）
演 題：ホーソン文学の予言的特性について
- ・総会
- ・懇親会：リーガロイヤルホテル広島

【第2日】

・シンポジウム

“Economy, however, is my mottoe”：アンテベラム作家たちの台所事情

司会・講師：真田 満 氏（龍谷大学非常勤講師）

講師：伊藤 淑子 氏（大正大学）

講師：小田 敦子 氏（三重大学）

講師：倉橋 洋子 氏（東海学園大学）

＜概要＞1849年10月ロンドンに出発しようとするメルヴィルは、妻の父に宛てた手紙に“Economy, however, is my mottoe”と書き記した。作家や詩人にとって、常に悩ましい問題のひとつが経済である。市場での商品性と芸術性のバランスだけが問題ではない。借金をすることもあったろうし、遺産や出版で得たお金の分配の問題もあっただろう。そのときの感情は、彼らのテキストにどのような影響を与えているのだろうか。エコノミーの語源が「家の運営」であることも考慮に入れるのなら、家族や親族との家庭運営の問題も、作家たちの作品創造に影響を与える要因として論じることができるだろう。メルヴィルは創作の時間を家庭の時間に合わせざるをえない悩みを訴えている。本シンポジウムは、アメリカ資本主義経済に翻弄される作家や家族といったテーマを、家庭、親族、友人などの親密な関係の圏内へ掘り下げながら、ホーソーン、エマソン、フラーを含めた女性作家に加え、メルヴィルと彼が批判したフランクリンも含めて経済というパースペクティブから解釈し、作家像の新たな分析の可能性を探る試みである。

・閉会のことば

＜発表応募規定＞

1. 発表者は会員であること。
2. 発表内容は未発表のものに限り、発表時間は1人25分以内（質疑応答を含まない）とします。
3. 応募書類
 - ①発表要旨：横書きで日本語800字程度、もしくは英語400 words程度にまとめたもの。
 - ②略歴：氏名（ふりがな）、勤務先、職名（学生の場合は所属先、身分）、連絡先（住所、電話番号）を明記したもの。上記2点を大会準備委員会までEメールに添付してお送りください。
応募先（問い合わせも）：中村善雄（ノートルダム清心女子大学）E-mail: nakamura@post.ndsu.ac.jp
4. 応募締切：2019年2月末日（必着） 選考結果は3月中に応募者にお知らせします。
5. 応募書類は返却いたしません、個人情報の扱いには十分留意いたします。
6. 大会の開催地区以外に居住している大学院生会員が研究発表（ワークショップ、シンポジウムを含む）をする場合、交通費の一部を協会が助成いたします。今大会では、中四国以外の地域に居住している大学院生が対象となります。助成希望の方は事務局までご連絡ください。

＜大会準備委員会より＞

今回のワークショップについては大会準備委員会からご提案させていただきましたが、シンポジウムについては支部から発案していただきました。以後も各支部からの発題を積極的にお願ひしております。以下に発案の要綱を再掲しておきます。

- 1) 各支部からの発案（テーマ、人選など）は複数でもよいし、発案しなくてもよい。
- 2) 各支部からの発案の選考や具体化（実施年度の決定など）は準備委員会で行う。
- 3) 各支部からの発案と準備委員会の発案との調整やコーディネイトは準備委員会が行う。
- 4) 機械的、強制的な支部間のローテーション制とはしない。

（中村 善雄 記）

追悼抄

萩原先生との日々

成田 雅彦（専修大学）

日本ナサニエル・ホーソーン協会の創立から関わられ、会長も務められて、文字通り協会の発展に多大な足跡を残された萩原力先生が亡くなられた。我々会員にとって、まず思い出されるのは、先生のご人徳とやさしいお人柄である。「お元気ですか？」といつも笑顔で、誰にも分け隔てなく声をかけて下さった先生がおられるだけで学会の雰囲気なごみ、特に恐々学会にやって来た若手の研究者を励まし包んで下さった。思えば僕は、先生にどれだけお世話になったか知れない。今も時々先生が無性に懐かしくなることがある。

立教大学3年生の時に、ホーソーン演習というクラスがあった。行ってみると、何と学生は僕一人。担当は萩原先生で、その一年、先生はできの悪い学生にホーソーンの手ほどきをして下さった。英語も難しかったが、短編作品を読む中で、こんな小説があるのかと思ったのを覚えている。毎週、先生とお会いできるのは楽しかった。その時以来、先生とのご縁は続き、アメリカに留学する時も推薦状を書いていただき、帰国してからは、これはまったく偶然なのだが、同じ専修大学の同僚にもなって、そこでもまたお世話になった。

アメリカの大学院で苦闘していた頃、ある日、寮に戻ると萩原先生からの手紙が届いていた。いつものお元気ですか？というご挨拶のあと、そこには、長々と、若い人を論じたエマソンの一節が翻訳されていた。果敢に何かに挑戦する青年、そういう若者は、それだけでもすばらしいのだ、と書いてあった。僕がエマソンの言うような立派な学生であったわけではない。しかし、先生ができの悪い教え子の苦境を察して手紙を送って下さったことは明瞭であった。メール・ボックスの前で立ったまま手紙を読んでいて、不覚にも涙がこぼれた。ニューイングランドの秋の風景とともに、あの時のことがいつも思い出される。

先生は協会をととても大切になさっていた。今もきっと、どこかで、僕らを慈しむように見えて下さるような気がする。ご冥福を祈りたい。

萩原力先生を偲んで

佐々木 英哲（桃山学院大学）

私が、当時、在籍していた立教大学文学部英米文学科では、専修大学から萩原先生が非常勤としてお見えになって、演習で Hawthorne の短編小説を担当されていました。恥ずかしながら私の場合、入学当初から英語学に入れあげておりました。急遽アメリカ文学に転向したのは、求める世界は英語学にはないと、はたと気付いた2年次の夏でした。そして3年次に先生の指導のもと、“Young Goodman Brown”を読み、Brown さながら、それまでの世界観が一変したのを、今でも鮮明に記憶しています。その後、先生のご論考を拝読し、英語論文を読む手ほどきを受け、ピューリタニズムが苛烈なパワーをアメリカ精神に及ぼしたことを理解し、フロイト精神分析学や神話学がどのように Hawthorne 解釈に援用できるのかを知りました。引き続き4年次にも先生の演習を履修し、卒論の助言をいただきました。大学院修了後は Hawthorne 協会への入会を勧めてください、自分の学会発表では司会を引き受けてくださいました。さらに非常勤探しや専任の推薦状までもお世話になりました。この道に進むことになったのは、ひとえに先生からの薫陶を授かったおかげと深謝に堪えません。今となっては恩返しもできないまま、今日に至ったことが悔やまれる次第です。

師岡愛子先生を偲んで

齋藤 幸子（川村学園女子大学名誉教授）

私自身は、師岡先生がご教鞭をとられた日本女子大学の卒業生でなく、ただただ、先生のご業績とお人柄そしてホーソン協会の会長先生として尊敬いたしておりました。この度、追悼文依頼を頂き、東京支部例会での在りし日のお姿を回想し、ささやかな思いを述べさせていただくことに深く感謝いたします。

二十三年ほど前だったと思いますが、師岡先生は日本女子大学の指導生だった先生方と書き上げられた『ルイザ・メイ・オルコット——『若草物語』への道——』をホーソン協会東京支部例会で発表されました。ご発表直前に、先生は一通の英文の手紙をおもむろに読み上げられました。その手紙には、『ルイザ・メイ・オルコット』がいかに素晴らしい著書であるかが書かれていました。ところが、讀えるために使われた <terrible> という語に師岡先生は深い疑念を覚えたのです。そこで、先生は「どうしてもこの <terrible> を素直に受け入れることができませんわ」と静かに申し訳なさそうに言われました。そして、「もし、手紙に書かれている賞賛の言葉が皮肉だったとしたら・・・」と重い面持ちになられました。

ところが、例会出席者の先生方から「それは考えすぎです」という意見を耳にしたとたん師岡先生のお顔は、たちまち五月の晴れ模様になっていったのです。優しくおおらかで、でも、とことん納得いくまで信念を持って物事に当たる個性豊かな師岡愛子先生あの晴れやかな笑顔を私は忘れられません。もちろん、この後の師岡先生を中心とする先生方のご発表は本当に素晴らしいものであったことは言うまでもありません。

師岡愛子先生から受けた様々なご恩に感謝し、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

2017年度 日本ナサニエル・ホーソーン協会 会計報告

(2017. 4. 1 ~ 2018. 3. 31)

収入			支出			
会費	795,000		編集室費	0	前期繰越金	1,096,027
賛助会員	70,000		大会費	96,406	収入計	2,083,381
雑収入	1,218,372		大会準備委員会費	0	計	3,179,408
利息	9		印刷費	61,668	支出計	587,998
計	2,083,381		国際渉外室費	10,000	次期繰越金	2,591,410
			謝礼費	50,000		
			支部研究会費	40,000		
				(東京 10,000)		
				(中部 10,000)	キャッシュポジション	
				(関西 10,000)	郵便貯金	1,165,643
				(九州 10,000)	みずほ銀行普通預金	1,356,965
			通信費	89,734	現金	68,802
			事務費	24,190		
			人件費	66,000		
			雑費	150,000		
			計	587,998		

上記の通り相違ありません

2018年3月31日

会計 中西佳世子 大野美砂

監査の結果、上記の通り相違ないことを証明します

2018年4月1日

監事 進藤鈴子 井上久夫

- * 「会費収入」については、振込依頼が前倒しとなったため、2018年度分の会費の一部(99,000円)が2017年度の収入に組み込まれている。
- * 「雑収入」のうち1,120,000円は、2017年度に本会計に組み込んだ編集室費である。
- * 「雑費支出」の150,000円は、国際学会費として支出したものである。
- * 『フォーラム』第23号(2018年3月発行)の作成費186,701円(印刷製本代149,040円、郵送代16,926円、発送時の封筒等20,735円)については、2018年5月に支払いをしたため、2018年度の支出とする。

顧問 川窪啓資 (麗澤大学名誉教授) 島田太郎 (東京大学名誉教授) 當麻一太郎 (元日本大学教授)
 丹羽隆昭 (京都大学名誉教授) 牧田徳元 (金沢大学名誉教授)

役員

<p>会 長 高橋利明 (日本大学)</p> <p>副 会 長 西谷拓哉 (神戸大学) 高尾直知 (中央大学)</p> <p>監 事 井上久夫 (関西学院大学) 進藤鈴子 (名古屋経済大学)</p> <p>理 事 大野美砂 (東京海洋大学) 大場厚志 (東海学園大学) 川村幸夫 (東京理科大学) 城戸光世 (広島大学) 倉橋洋子 (東海学園大学) 佐々木英哲 (桃山学院大学) 鈴木孝 (日本大学) 谷岡朗 (日本大学) 中西佳世子 (京都産業大学) 中村栄造 (名城大学) 成田雅彦 (専修大学) 橋本安央 (関西学院大学) 堀切大史 (日本大学)</p>	<p>事 務 局 鈴木孝 生田和也 (鹿児島女子短期大学) 稲富百合子 (岡山大学非常勤講師) 内堀奈保子 (日本大学) 大川淳 (京都ノートルダム女子大学) 川村幸夫 小宮山真美子 (長野工業高等専門学校) 妹尾智美 (立命館大学) 高橋愛 (岩手大学) 富樫壮央 (麗澤大学非常勤講師) 中村文紀 (日本大学)</p> <p>会 計 大野美砂 中西佳世子</p> <p>編 集 室 高尾直知 大場厚志 城戸光世 佐々木英哲 中村栄造 古屋耕平 (神奈川大学)</p> <p>資 料 室 田島優子 (宮城学院女子大学) 奈良裕美子 (公立諏訪東京理科大学) 堀切大史</p> <p>国際渉外室 上原正博 (専修大学) 藤村希 (亜細亜大学)</p> <p>大会準備委員 谷岡朗 辻祥子 (松山大学) 中村善雄 (ノートルダム清心女子大学) 橋本安央</p>
--	---